

平成16年6月期 第三級海上特殊無線技士 試験問題

無線工学

1. 電波の伝わる速度は、1秒間に30万キロメートルである。
2. 送信機は、発振、増幅及び復調を行う部分から構成されている。
3. 無線電話の単信方式では、一般に一基の空中線を送信と受信に共用している。
4. 電離層波と地表波では、地表波の方が遠方まで伝わる。
5. 無線電話装置において、プレストーク・ボタンを押すと自動的に受信状態になる。
6. スリーブアンテナは、無指向性空中線である。
7. 蓄電池（バッテリー）の容量は、使用する電流の大きさと電圧によって決められる。
8. SSB方式の無線電話装置には、スピーチクラリファイヤつまみがある。
9. チャンネルつまみは、送受信周波数を希望する周波数に合わせるために使用される。
10. 船舶に設置されたパルス波レーダーは、マイクロ波帯を使用するので混信しない。